

## 利尻島におけるミヤコドリの観察記録

田牧和広

〒 097-0211 北海道利尻郡利尻富士町鬼脇字清川

### An Observational Record of Eurasian Oystercatcher, *Haematopus ostrlegus*, from Rishiri Island, Northern Hokkaido

Kazuhiro TAMAKI

Kiyokawa, Oniwaki, Rishiri Is., Hokkaido, 097-0211 Japan

2008年5月28日午後6時ごろ利尻富士町鬼脇沼浦地区においてミヤコドリ1羽を観察したので報告する。本個体は砂浜が広がる海岸の波打ち際において、シギ・チドリ類のように片足で立ち、海からの風に上体を向けて位置していた。観察中は採餌や飛翔をすることもなく、左右を眺めるような行動を見せるのみであった。(Fig. 1)。飛び立つ際に「ピリィ」と鳴き、飛翔時は「ピッ、ピッ、ピッ」とシギ・チドリ類がよく発するような鳴き声で飛び去った。大きさはハシボソガラスくらいに見え、特徴的な赤く長い嘴、黒い頭部と背中、白い体下面などからミヤコドリと判断した。観察距離は20m～30mであった。

ミヤコドリの冬羽では喉に細長い白斑が現れるため、今回観察した個体の特徴とは合致しない。若鳥から第一回冬羽にかけては、頭部と胸が黒く、背中から体上面にかけては褐色を呈し、嘴の先端部が黒いとされる (Message & Taylor, 2006)。今回観察された個体は、雨覆に若干褐色味が残り、嘴の先端が黒色を帯びていることから、第一回冬羽から夏羽に移行している時期の個体ではないかと思われた。

本種は旅鳥または冬鳥として日本各地の砂浜や岩礁の海岸、干潟、河口などに渡来する (真木・大西, 2000; 桐原ほか, 2000)。北海道では稀な旅鳥とされ、過去にも小樽、石狩、鶴川、涛沸湖コムケ湖などで観察されているが (藤巻, 2000; 日本鳥類

目録編集委員会, 2000)、利尻島からの観察記録はこれまでなかった (小杉, 2000)。

#### 参考文献

- 藤巻裕蔵, 2000. 北海道鳥類目録 改訂2版. 帯広畜産大学野生動物管理学研究室. 83 pp.
- 真木広造・大西敏一, 2000. 日本の野鳥 590. 平凡社. 655 pp.
- Message S, & D. Taylor, 2006. *Shorebirds of North American, Europe and Asia: A Guide*



Figure 1. An Eurasian Oystercatcher observed at Numaura, southern area of Rishiri Island, at May 28th 2008.

- to Field Identification*. 240 pp. Princeton University Press.
- 日本鳥類目録編集委員会, 2000. 日本鳥類目録. 改訂第6版. 日本鳥学会, 京都. 345 pp.
- 桐原政志・山形則男・吉野俊幸, 2000. 日本の鳥 550. 水辺の鳥. 文一総合出版. 352 pp.
- 小杉和樹, 2000. 利尻島における月別鳥類出現リスト. 寺沢孝毅(編), 北海道 島の野鳥. 150-155 pp. 北海道新聞社. 札幌.
- 高野伸二, 2007. フィールドガイド日本の野鳥. 増補改訂版. 日本野鳥の会. 374 pp.
- 叶内拓哉, 1998. 日本の野鳥. 山と溪谷社. 624 pp.